

第4回テーマ「渡辺論文(※)、第2章第2節、第3節を読む: グライスが考える〈正しい解釈〉に不可欠な『協力の原理』とは」

※ (渡辺裕「音楽における意図と意味」、『研究』第2巻、東京大学文学部美学藝術学研究室、1984年。)

演習課題: 「渡辺論文 第2章第2節と第3節の精読のための課題」

論文中の該当箇所について、以下の項目に示した事柄を読み取り、回答できるように準備してください。

(所要時間 約30 分程度。指定の時刻になったら、報告・発表・議論のために、必ず meet を再接続してください)。

● 第2章第2節 【段落 8】 pp.87-88.の内容

8-1. グライスは論文「意味 (meaning)」(1957) を基礎にして、次に何を説明しようとしたか。その論文(A) のタイトルと発表年は?

8-2. 論文 (A)において、グライスは「何を取り上げて」、「何を明らかにし」、それを「どのような言葉 (概念 (B)) 」 で示したか?

● 第2章第2節 【段落 9】 p.88.の内容

9-1. 渡辺によると、グライス自身は「概念 (B)」をどのように言いあらわしたか? グライスの言葉で答えてください。

9-2. 渡辺は「概念 (B)」をどのように解説しているか?

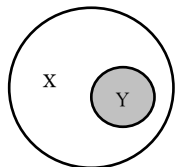
● 第2章第2節 【段落 10】 pp.88-89.の内容

10-1. グライスは、ガソリンスタンドをめぐる 人(A)と、人(B) による会話の例をとりあげて、何を問いかけているか?

10-2. グライスによると、なぜ、上記の AとBによる会話が成立するのか?

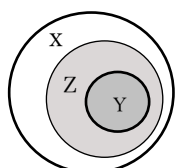
● 第2章第2節 【段落 11】 p.89.の内容

11-1. グライスによれば「概念A」と「個々の発話」は、右のベン図でいうと、どちらが X や Y に相当するか。



11-2. ここでの「準則」とは、何を示しているのか?

11-3. 「概念A」と「準則」と「個々の発話」は、右のベン図でいうと、どれが X や Y や Z に相当するか。



11-4. グライスによれば、コミュニケーションにおける「言外の意味」は、どのような仕組みで生ずるか?

● 第2章第2節 【段落 12】 pp.89-90.の内容

12-1. ここでの2つのグライス論文を通して、グライスが基本的に主張したのはどのようなことか？

● 第2章第3節 【段落 13】 p.90.の内容

13-1. 語用論において、グライスの「概念A」は発展的に修正されるが、その代表的存在のウィルソンとスベルベルはどう修正したか？

● 第2章第3節 【段落 14】 p.90.の内容

14-1. ウィルソンらは、グライスの概念 (A) に従って行われる発話の満たすべき条件を「どのような言葉 (概念D)」で示したか？

14-2. 渡辺は、「概念D」を、どのように一言で言い表したか？

14-3. ウィルソンらは、概念Dを用いて、発話解釈にあたって受け手が前提としてふまえている公理をどのように規定したか？

● 第2章第3節 【段落 15】 p.91.の内容

15-1. ウィルソンらは、グライスの4つの準則を、どのような命題として一つにまとめたか？

● 第2章第3節 【段落 16】 p.91.の内容

15-1. ここまでのまとめとして、グライスは、会話においてコミュニケーションが成り立つためには、何が必要と考えたか？

15-2. グライスを継承するウィルソンらは、さらに、発話とはいかなるものである必要を明らかにしたか？

● 最後に、、、

15-3. あらためて、グライスによる「概念A」とウィルソンとスベルベルによる「概念D」のそれぞれの概念名を英語と日本語でのべよ。